

2019

4

April
No. 313

広報みしま



1年生に向かってジャンプ！

三島保育所満了式（6 ページに関連記事）

町の予算

町の一般会計と7つの特別会計の予算が、3月の町議会定例会で議決されました。
町民のみなさんと町が一体となった協働の町づくりを一層進め、「住みたい、住み続けたいふるさと」を目指します。

Pickup1 健康



昨年度より開始した「目指せ！健康寿命プラステン」の継続、胃内視鏡検査（胃カメラ）や歯科検診の追加実施などにより健康増進と疾病の早期発見を図ります。また、幅広い世代で生活習慣病予防の支援を行います。
☎ 町民課 保健福祉係
☎ (48) 5565

Pickup2 介護



地域支え合い事業を推進し、住み慣れた地域でいつまでも元気に暮らせる町づくりを目指します。また、医療機関と連携してもの忘れ検診などを実施することで、認知症の早期発見、早期治療を推進します。
☎ 町民課 保健福祉係
☎ (48) 5565

Pickup3 桐



桐植栽や管理を進めデータを蓄積し、当町での会津桐栽培方法の確立に結びつけます。また、会津桐の普及啓発に向けたPR活動や桐苗栽培体験などを通じて会津桐に触れあう機会を増やします。
☎ 産業建設課 産業係
☎ (48) 5566

Pickup4 林業



昨年度より始まった木の駅事業の推進や薪ストーブ設置に対する補助制度、薪燃料供給事業を通じて地元木材資源の活用を推進します。また、ふくしま森林再生事業により、施業計画や間伐、作業道整備などを実施します。
☎ 産業建設課 産業係
☎ (48) 5566

Pickup5 定住



生活工芸アカデミーの運営体制強化と、カリキュラムの充実により、生活工芸の担い手を継続して確保します。また、工人の館をアカデミー事業の拠点として整備し、町内外のものづくりを通じた交流を進めます。
☎ 生活工芸館
☎ (48) 5502

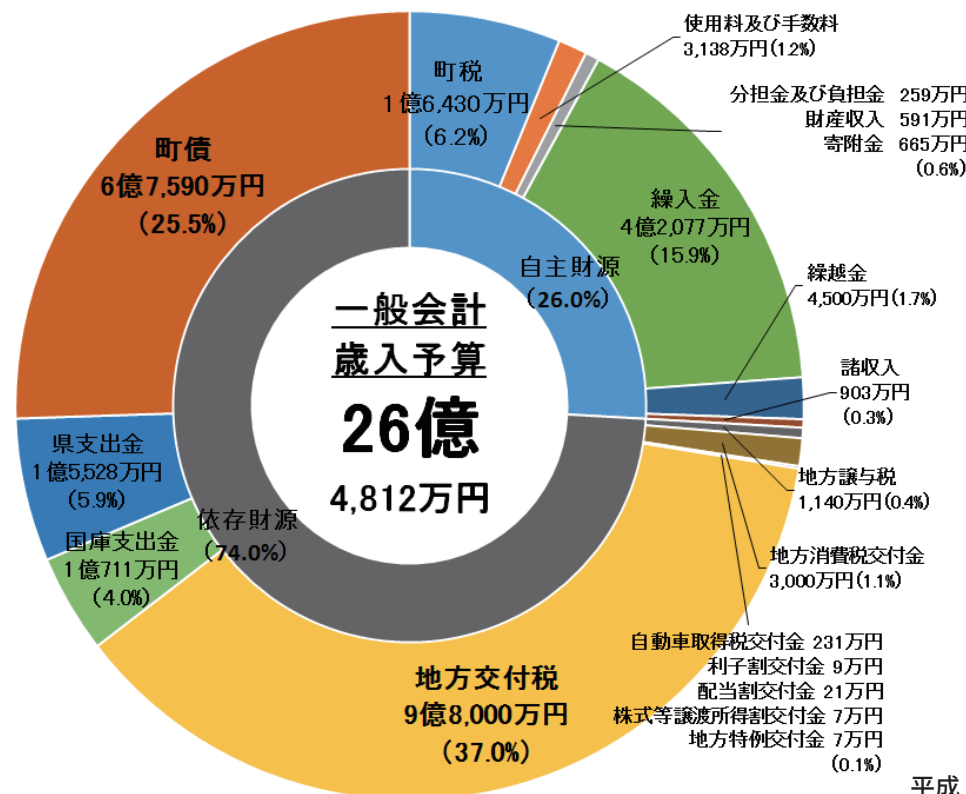
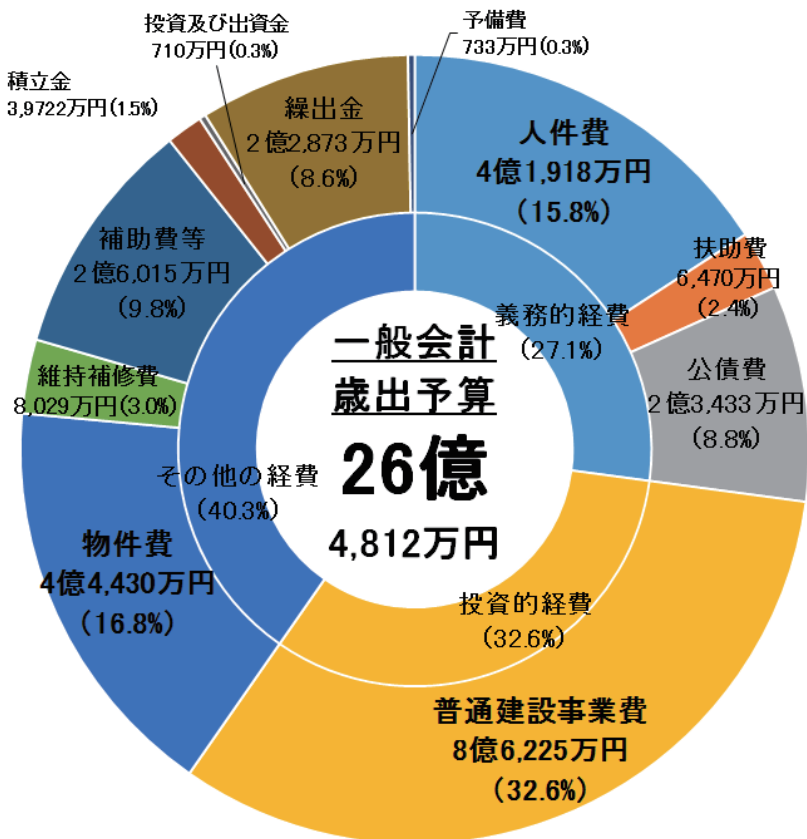
Pickup6 防災



地区住民の一時避難所となる各地区集会所の耐震改修を年次計画に基づき実施します。今年度は、大石田集会所の新築工事を行います。また、防災拠点となる役場庁舎および町民センターの耐震改修の設計を行います。
☎ 総務課
☎ (48) 5511

主な投資的事業

役場庁舎・町民センター耐震改修設計
大石田集会所新築工事
宮下温泉改修
工人の館外構整備工事
老人休養ホームトイレ等改修工事
防災行政無線デジタル化改修工事
福島森林再生事業
上ノ原団地整備事業
ビューポイント等環境整備工事
空家解体工事
薪貯蔵庫新築工事
除雪ローダー購入
消火栓改修・新設
大石田高尾原土砂埋立測量設計
会津宮下駅周辺まち並み整備設計



平成31年度 会計別予算額

会計種別	予算額	前年度からの増減
一般会計	26億4,812万円	+3億2,712万円
国民健康保険	2億1,793万円	+1,847万円
簡易水道	1億8,919万円	-1,745万円
路線バス	2,954万円	+83万円
農業集落排水	2,283万円	-276万円
介護保険	4億6,903万円	+3,849万円
戸別合併処理浄化槽	4,679万円	+557万円
後期高齢者医療	2,872万円	-30万円
合計	36億5,218万円	+3億6,998万円

用語の説明

●一般会計と特別会計
町の会計には、一般会計と特別会計があります。一般会計は基本的な経費の会計、特別会計は特定の事業を行うために区分した会計です。

●町税
町民の皆さんに納めていただく税金です。町民税、固定資産税、軽自動車税などがあります。

●町債
町の借金で、公共施設の建設など、一時的に多額の費用を必要とする場合の財源に充てられます。

●地方交付税
町の財政力に応じて、国から交付されるお金です。財政力の不均衡をなくし、一定の

サービスができるよう、国税（所得税、法人税、酒税、消費税、たばこ税）として国に納められた税金のうち、一定割合の額を地方自治体に配分するものです。

●国庫支出金・県支出金
町が行う特定の事業に対して、国や県から交付されるお金です。

●人件費
報酬や給与などです。

●物件費

賃金、旅費、消耗品費、燃料費などの消費的な経費です。

●維持補修費
道路や公共施設などを管理するための経費です。

●扶助費
高齢者、児童、心身障がい者などに支援する経費です。

●補助費等
町から他の団体などに対して、特定の目的で支払う補助金などです。

●普通建設事業費

道路や住宅、公共施設などの整備のための経費です。

●公債費

町の借金を償還する（返す）ための経費です。

●積立金
財政運営のために積み立てるお金です。

●繰出金
一般会計から特別会計に出しているお金です。

◀大賞に輝いた菅家アイ子さん



◀特別賞を受賞した三島小6年生



第38回 三島町生活工芸品展

大賞
菅家アイ子さん（間方）
作品名「外皮手提げ籠」

特別賞
三島小学校6年生
作品名「ざる」

第38回三島町生活工芸品展は3月16日・17日に開催されました。町民98人、696点の作品の中から、菅家アイ子さん（間方）の外皮手提げ籠が大賞に選ばれました。菅家さんは優秀賞にも入賞しています。また、最高齢出品者として目黒良介さん（滝谷・91歳）が特別賞を受賞しました。三島小学校児童は総合学習の時間でマタタビざるや山ブドウの巾着作りに挑戦し、作品を完成させました。次代を担う子どもたちが三島の伝統的なものづくりの手法を学び、作品を完成させ、同じく特別賞を受賞しました。

同時に第18回全国編み組工芸品展が開催され、123人から921点の作品が寄せられ、板橋泰二郎さん（滝原）の山ブドウ手提げ籠が福島放送賞に選ばれました。

会場には、受賞作品を一目見ようと町内外から約3千人のお客様が訪れました。目で見、手で触れて、丁寧に作られた作品に見入っていました。

第18回 全国編み組工芸品展

経済産業大臣賞
延原有紀さん（岩手県）



経済産業大臣賞を受賞した延原有紀さん

三島町生活工芸品展

受賞者（敬称略）

▼大賞Ⅱ菅家アイ子（間方）外皮手提げ籠（マタタビ）▼伝統技術者証Ⅱ五十嵐朝子（大石田）手提げバッグ（ヒロロ）、五十嵐健二（名人）むしろ（ワラ）、渡部ユキ子（荒屋敷）手提げバッグ（ヒロロ）▼優秀賞Ⅱ武地修一（大石田）カッラのちやぶ台（木工）、菅家アイ子（間方）ヒロロ手提げ籠（ヒロロ）、栗田政行（川井）四ツ目ザル（大）（マタタビ）▼奨励賞Ⅱ二瓶譲（大谷）手提かご（山ブドウ）、角田清義（浅岐）手提げ籠（山ブドウ）、馬場修子（松原）裂き織Ⅱ三島町議会議長賞Ⅱ渡部マサ（西方）ショルダーバッグ（ヒロロ）▼日本赤十字社県支部長賞Ⅱ諏訪フヂエ（浅岐）手提げ籠（ヒロロ）▼県老人クラブ連合会長賞Ⅱ鈴木みゑ子（松原）小物入れ（山ブドウ小物）▼町文化協会会長賞Ⅱ角田タケノ（浅岐）縄（50m）（ヒロロ）▼町商工会長賞Ⅱ舟木

トメ子（間方）雪踏み俵（ワラ）▼町観光協会会長賞Ⅱ渡部繁信（大石田）またたびザル（マタタビ）▼町社会福祉協議会長賞Ⅱ二瓶辰雄（西方）手提げ籠（山ブドウ）▼町老人クラブ連合会長賞Ⅱ小柴芳夫（西方）手提げ籠（山ブドウ）▼福島民報社賞Ⅱ五十嵐陽二（名人）長財布（山ブドウ小物）▼福島民友新聞社賞Ⅱ長谷川一雄（桑原）ショルダーバッグ（マタタビ）▼旬マルシエみしま賞Ⅱ五十嵐登美雄（早戸）手提げ籠（山ブドウ）▼町生活工芸運動友の会会長賞Ⅱ武地優子（大石田）手提げかご（山ブドウ）、庄司はるか（宮下）米研ぎ箆（マタタビ）、嶋真史（宮下）四ツ目箆（マタタビ）、二瓶聡子（西方）手提げ籠（山ブドウ）、若林香代子（滝谷）長財布（山ブドウ小物）▼宮崎清賞Ⅱ五十嵐健二（名人）猫ちぐら（ワラ）、栗城ゆみ子（宮下）素編み小カバン（アケビ）、菅家ハルイ（間方）抱えバッグ（ヒロロ）、鈴木隆（松原）手提げ籠（山

ブドウ）、板橋久枝（宮下）山ブドウブレスレット（山ブドウ小物）、角田ツヤ子（浅岐）手提げバッグ（ヒロロ）、二瓶キシイ（名人）ヒロロ・モワダ手提げバッグ（ヒロロ）、五十嵐純子（大登）米研ぎ箆（マタタビ）▼特別賞Ⅱ目黒良介（滝谷）そば箆（マタタビ）、板橋卓・小松智広・齋藤美那・酒井大駕・真田智和・二瓶佳悟・秦慎之助（三島小6年）ざる（マタタビ）、小松智広（三島小6年）巾着（山ブドウ）、鈴木美乃里（三島小5年）巾着（山ブドウ）、鈴木璃音（三島小4年）巾着（山ブドウ）、齋藤翔子（三島小3年）巾着（山ブドウ）

◀生活工芸アカデミー生の作品も展示されました



全国編み組工芸品展

受賞者（敬称略）

▼経済産業大臣賞Ⅱ延原有紀（岩手県）箕（サルナシ、ニセアカシア、根曲り竹、サクラ）▼林野庁長官賞Ⅱ畑田真弓（愛知県）四ツ目手付籠中（真竹）▼東北経済産業局長賞Ⅱ渡邊孝作（栃木県）盛りかご（三つ組）（真竹）▼福島県知事賞Ⅱ西方さと子（長野県）あけびかご（アケビ）▼一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会賞Ⅱ黒田勇志（福島県）米とぎ箆（マタタビ）▼三島町長賞Ⅱ中川原信一（秋田県）手提げバッグ（ヒロロ）▼三島町議会議長賞Ⅱ斎藤美智子（福島県）手提げバッグ（山ブドウ）▼福島民報社賞Ⅱ五十嵐道夫（福島県）手提げバッグ（クルミ）▼福島民友新聞社賞Ⅱ湯澤隆生（東京都）素編みみだれ編みかご（アケビ）▼NHK福島放送局賞Ⅱ鈴木由加利（長野県）藁籠（ワラ）▼福島テレビ賞Ⅱ岩淵清隆（福島県）果物用盛ザル（マタタビ）▼福島中央テレビ賞Ⅱ渡部政衛（福島県）アカソショルダー

◀開場直後の様子



目指せ！
健康寿命 + 10 歳！（プラステン）

「第3回健康フォーラム」



3月23日、町民センター大ホールにおいて、第3回目となる「健康フォーラム」が開催されました。午前中は、「生活習慣病と認知症」「運動の習慣化を目指して」をテーマにプラステン講習会が行われました。参加者の皆さんは生活習慣病によるフレイル（日常生活動作や認知機能の低下などによる要介護手前の状態）になる危険性と、特に運動面からみた生活習慣病の予防、ウォーキングに最適な時間や無理なく続けるコツを学びました。また、昼食には高血圧を防ぐ減塩食メニューを味わい、健康づくりに関する理解を深めました。

町では、次年度も継続して事業を続けていきますので、ぜひとも参加いただき、健康で元気な生活を送りましょう。



三

島の桐の振興に向けて

桐の育て方報告会

桐の育て方報告会は3月7日町民センターにおいて、町内外から46名の参加をいただき開催されました。

藤田旭美町桐専門員が、なぜ桐は成長が早いと言われているのか？などの桐の特徴について文献調査で調べた内容や、今年度の活動、調査・研究成果について報告しました。

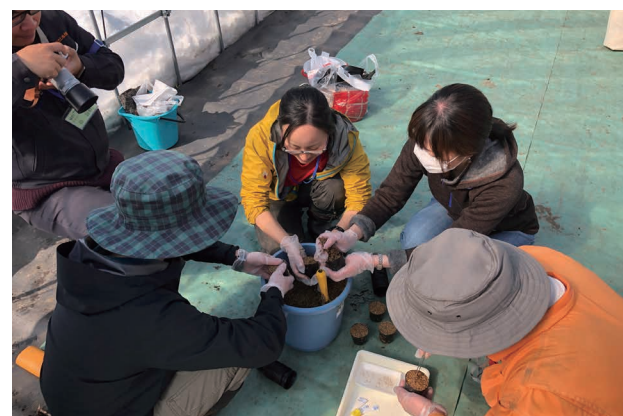
町では、苗の育成や町内7箇所の定植地の管理栽培の際に、その成長についても記録を取りためています。それらのデータと、周辺環境の調査結果やデータを分析・考察することで、桐の良好な育成と作業の効率化を図っています。

今回の報告会では、それらの調査結果の一部についても紹介されました。また、質疑応答では、参加者の方から多くの質問が寄せられ、熱心な議論が交わされました。

町では「桐の育て方 勉強会」として桐の苗づくりや定植した桐の管理方法、病害虫の対処法などを作業しながら学ぶ機会を設けました。第1回目は3月15日に西方地区で行い、種まきなどを行いました。今後も、台切り、芽かきや雪囲いなど降雪時期まで継続して実施しますので、ぜひご参加ください。

実施予定日や内容についての問合せ先

三島町役場産業建設課産業係 ☎ 0241 (48) 5566



夢抱き 11 人が羽ばたく

三島中学校卒業式

三島中卒業式は3月13日に行われ、11人が門出を迎えました。卒業生は佐藤昭校長から卒業証書を受け取りました。在校生が「蛍の光」を歌い、卒業生を送り出しました。卒業生を代表して、小松凌大さんが別れのことを述べた後、「仰げば尊し」、卒業讃歌「旅立ちの日に」を歌い、新たなスタートを祝いました。

7 人が新たなステージへ

三島小学校卒業式

三島小卒業式は3月22日に行われ、7人が門出を迎えました。卒業生は渡部^{まなぶ}学校長から卒業証書を受け取ると、一人一言、将来の夢や目標、家族や地域の方々への感謝を述べました。お別れの言葉では、卒業生一人一人が6年間の思い出や感謝の言葉を述べ、会場は感動に包まれました。



思い出を胸に 4 人が新1年生

三島保育所満了式

三島保育所満了式は3月27日に行われ、年長児4人が満了しました。大竹真理子所長から満了証書を受け取ると、後ろで待つお父さんお母さんへ、「ありがとうございました」と言って満了証書を預けました。その後、入所児全員で「思い出のアルバム」などを歌い、思い出がたくさん詰まった保育所とお別れしました。



子育て世代を応援します！

平成31年4月より保育料が無料になります

町では、平成31年4月より子育て支援をさらに拡充するため、保育料を無料といたします。

ただし、一時保育料については、従来どおり日額の保育料をいただくことになりますので、ご了承ください。

問合せ先：教育委員会生涯学習課 ☎ 0241 (48) 5599





町政について報告、意見交換を行った地区座談会（写真は滝谷地区）

地区座談会報告

地区座談会は11月26日から12月25日にかけて町内15会場で行われ、多くの方々に出席いただきました。「木の駅事業について」「健康づくり事業について」「地域支え合い事業について」などについての説明と質疑応答、意見交換を行いました。その主な内容を報告します。

①木の駅事業について

〔質問〕木の駅事業は山林を間伐してもらうのではなく、運んだものを買って取ってもらうという理解でよいのか。また、事業の目的は何か。

〔回答〕その通りです。目的は、山の整備を進めるにあたって、まずは山に目を向けてもらい課題を整理して解決するためです。

〔質問〕個人では伐採・搬出は難しいのでは。三島の木材は商品価値がほとんどない。

〔回答〕商売としてはではなく、森林管理のきっかけづくりや意識醸成が狙いの事業となっています。

〔質問〕対象とする木の種類は針葉樹と広葉樹を選別するのか。

〔回答〕メインは杉ですが、竹以外であれば両種を選別せずに取り扱う予

定です。

〔質問〕杉の市場価格はいくらなのか。

〔回答〕1万円程度だと思われまます。なお、燃料としてB・D材を利用するため、1㎡あたり4,500円は妥当な金額だと考えています。

〔質問〕木の駅事業は山林を所有していないと利用できないのか。家の周りにある廃材を活用したい。

〔回答〕事業目的は荒れた山林の利活用にあるので、事業趣旨と異なりま

す。

〔質問〕予算額はいくらか。

〔回答〕30万円程度を予定しています。

〔質問〕伐採は誰かがやってくれるのか。

〔回答〕基本は個人もしくは個人で業者に依頼するなどして伐採し、指定された日時、場所に持参

することを条件としています。

〔質問〕伐採は何人で行ってもいいのか。また、集積所はどこになるのか。

〔回答〕何人でやっても構いませんが、買取り金額は持ち込まれた木材の量によります。集積所は、しばらくはふるさと荘隣の元物産館駐車場になります。

〔質問〕枝払い等、各作業の労働量を軽減する機械の導入や貸し出しは考えているのか。

〔回答〕今のところ導入の予定はありませんが、いくつかの地区で要望が出ています。機械を導入しても使用するには一定の技術が必要といった問題もありますが、今後の事業展開次第では考えていきます。

〔質問〕まず自分の山に行くことができない。業者をお願いすればできる

るさとの未来を描く

ふ

理想のまちづくり発表会

2月27日、三島町民センターで三島小学校6年生による「理想の町づくり発表会」が行われました。それぞれが描く理想の三島町の姿を「子どもが住みやすい町にするために」と「町の中でお金が回ることについて」の2つの視点から、矢澤町長、五十嵐健二町議会議長や町議会議員の方々に向けて発表しました。

「空家の有効活用」「他町村との交流」「エネルギーの自給について」など、理想の町に向けた提案は、他町村や他国の例なども調べてあり、比較や検討を十分に重ねての発表でした。また、質問にも自分の考えを持って答えていました。



様

々な視点から町おこし

地域おこし協力隊報告会

地域おこし協力隊報告会は3月15日に町民センター大ホールで行われました。三島町地域おこし協力隊として平成30年度は4名の方が活動しました。観光振興では梅津汐夏さん、移住定住では吉垣絵梨子さん、農業振興では山口泰一郎さん、情報発信では常盤達彦さんがそれぞれの分野で能力を活かし活動しました。報告会ではそれぞれの協力隊員が三島町での活動を決めた経緯、活動成果報告や今後の目標について発表しました。

防

火・防災意識の向上に貢献

(有)マルシェみしまが会津坂下消防署より表彰

(有)マルシェみしまが消防行政への協力と町民に対する防火。防災意識の高揚に大きく貢献したとして、会津坂下消防署長より感謝状が贈呈されました。同社は道の駅尾瀬街道みしま宿において、平成22年度より毎年、秋季火災予防運動において火災予防の啓蒙と住宅用火災警報器設置の促進を目的とした街頭広報や保育所児の防火ぬり絵展示など多岐にわたり協力しています。なお、会津坂下消防署管内では唯一の受賞となりました。



保

健推進員の皆様2年間ありがとうございました

平成30年度第2回保健推進委員会

平成30年度第2回保健推進委員会は3月25日に町民センターで開催されました。24名が参加し、30年度の活動状況報告や活動の感想や反省、町の健康づくりへの提言等、活発な話し合いがなされました。

保健推進委員会は地域の方の健康状況の把握や、町の保健事業の協力、健診受診のお勧めなど様々な活動をしています。平成29年に委嘱された現在の推進員の方々は3月末で活動終了となります。2年間、町の健康増進のため様々な活動ありがとうございました。



かもしれないが難しい。

〔回答〕 地区によつてはグループを作る動きもあります。作業してくれる人がいれば、支援隊での対応も考えられます。町民の皆様が使いやすい制度に作り上げていきたいと考えています。

〔質問〕 軽トラックで運べる材はいいが、運べない材は役場で業者を紹介してもらえないか。

〔回答〕 立派な材は木の駅事業ではなく、建築材料等での活用可能性があるので相談してください。町で森林組合や業者を仲介いたします。

〔質問〕 事業でできた薪は町で購入することだが、町民向けの販売は考えているのか。

〔回答〕 どれだけ薪が集まるか不透明なので、早い段階での薪販売は考えていません。将来的に事業が順調に進み、薪に余

剰ができるなどすれば検討してみたいと考えています。

〔質問〕 商品券の使用期限を6カ月とした理由は何か。

〔回答〕 全国の事例を参考にしながら期限を定めました。

〔質問〕 生活工芸館のボイラーで使用する薪はどれくらいの頻度でくべなければいけないのか。また、それを職員が行うのであれば業務に支障はないのか。

〔回答〕 朝・昼・晩にある程度のサイズのものを入れておけば良いと考えています。薪は職員がくべますが、業務への影響は少ないと考えています。

〔質問〕 木の駅事業はとも良い政策だと思いが、高齢者は自分で伐採・搬出できないのが現状である。これからどのような

に改善していくのか。

〔回答〕 始まったばかりの制度なので課題はあります。山形県白鷹町ではNPOをつくり対応しています。そういった事例もあり、町民の方からの意見をお聞きし、伐採できる方を参集し組織化したり、業者に委託等できないか等様々な方法を検討していきます。

〔質問〕 伐採・搬出を業者にお願ひしたらいくらかかるのか。採算が合わないのではないのか。

〔回答〕 合わないと思いますが、出来ることから始めていこうと考え始めた制度です。ご理解いただき、多くの方から意見をお聞きしたいと考えています。

〔質問〕 近隣町村でこの事業を実施しているのか。

〔回答〕 近隣ではなく、南会津町や山形県で行つ

ています。儲かる仕組みでないので、楽しくてやっているというくらいでないと言えないと感じています。

〔質問〕 買い取った薪の販路はあるのか。

〔回答〕 生活工芸館で冷暖房を行う機械を設置する予定です。今のところ他に販路はありません。

〔質問〕 卸し先が生活工芸館のみのため、過剰供給になるのではないか。また、商品券の有効期限が6カ月というのは少し短いと思う。この事業で稼げる人が稼げるのか。

〔回答〕 将来に向けて課題や方法を整理し詰めたと考えています。林業として赤字となりますが、建材、木材として使えず捨てられるような部分を有効活用する主旨の事業となります。

〔質問〕 灯油の方が安いと思うが、わざわざ薪を

購入して実施する意味があるのか。

〔回答〕 木の駅事業は地元の山の資源を町で循環させるモデルづくりを目標としています。

〔意見〕 現状、間伐材等は倒して放置していることが多い。地区の人達や若い人たちにも広め、参加してもらいたい。

②健康づくり事業について

〔質問〕 健康ポイントカードの中の健康宣言の内容は何でもいいのか。

〔回答〕 健康ポイントカードを利用できる条件は、たばこをやめる等、自分の健康上の目標を立てることです。宣言の内容については、健康上認められるものであれば何でも構いません。

〔質問〕 ウォーキングコースの設定は宮下・大登地区等を中心に展開していくのか。または地区全体

に設定するのか。また、

コースを作成した場合はコース看板の設置をお願いしたい。

〔回答〕 すぐに全地区に設定するのは難しいので、地区を選定し徐々に全地区へ展開していく予定です。コースは地図にしたいと考えていて、看板の設置については未定です。

〔意見〕 例えば、葉酸はボケ防止になり、埼玉県坂戸市では摂取促進の取り組みを行っている。減塩もよいが、葉酸に限らず健康づくりの目玉を設けてPRする取り組みも良いと思う。

〔回答〕 重症化予防のため、三島町なりの取り組みを考えていきます。

〔意見〕 桐の里倶楽部のトレーニングルーム設置は良い取り組みだと思う。今後運動人口を把握すると計画が立てやすく

なるのではないか。

〔意見〕 健康を維持するには運動や食事そして社会参加が大事だと思ふ。実際参加しない方が体を悪くしている。いかに参加してもらうかが課題だと思ふ。お茶のみ程度でもいいのでお互い気を配ることも大切である。

③地域支え合い事業について

〔質問〕 三島町の介護保険料について8,000円とあるが、月額の平均保険料なのか。〔回答〕 三島町の基準額です。

〔質問〕 介護保険料が全国10位とのことだが、近隣町村より高いのはなぜか。

〔回答〕 介護保険料は介護度が高い人が多いほど高くなります。当町では介護度が高い方が多く、施設に入る方が倍近くいるためです。介護が必要にならないよう健康事業

に取り組んでいきます。

〔質問〕 介護保険料はどこで決めるのか。

〔回答〕 3年間の見込みを考慮しながら町で定めます。

〔質問〕 介護保険料の補助はないのか。

〔回答〕 介護保険は公費が1／2、残りの1／2を町民の皆様からの保険料でまかなっており、保険料は所得等に依じて軽減措置があります。介護保険料を下げるためには、40代、50代の予防をどうするかが大事です。宮下病院を核として、医療、保健、介護の地域ケアができればいいと考えています。

〔質問〕 高い介護保険料は特老人所者も関係あるのか。

〔回答〕 住所地特例というものがあり、施設に入る前に住んでいた自治体の負担になります。

〔質問〕 みしま支援隊の登録者数と利用実績を教えてください。

〔回答〕 登録者数は14名で、随時募集しています。のべ11件の利用があります。内容は草刈りが中心です。(平成30年12月現在)

〔質問〕 町の高齢化率を考えると、今後が心配である。

〔回答〕 高齢化率の増加を止めることは難しいですが、遅らせるようにしていきます。健康で過ごせる時期を長くして、介護にかかる負担を軽減していきま

す。

〔質問〕 みしま支援隊重作業部門について、雪かきで考えた際に料金が高くないか。使う側の助成はないか。

〔回答〕 雪かきに関しては除雪支援隊があるため利用実績はありません。なお、要支援者への除雪費の助成があります。

〔質問〕 安否確認の頻度は

どれくらいを考えているのか。

〔回答〕 毎日声をかけたいと思います。緊急通報システムで週1回の電話連絡などは実施しています。

〔意見〕 みしま支援隊作業に従事し、利用者に大変喜ばれた。意義のある事業だと思ふがPRが足りないと思ふので、周知をお願いしたい。

〔回答〕 認知度が低いという面は否めませんので、一層のPRを行い、利用者、登録者共に増やしていきたいと考えています。

〔意見〕 介護予防教室(こらんしよ運動教室)を各地区で実施してもらったことは大変良かった。今後も実施してほしいと思ふが、男性参加者が少なく、行きづらい雰囲気である。

〔回答〕 参加者の9割が女性です。皆様も男性を誘っていたけるとありがたいです。

平成最後の総会開かれる

文・写真 小島純さん（宮下）



宮下地区（近藤勇彦区長）の平成 31 年度宮下地区総会は 3 月 24 日に宮下活性化センターで開催され、約 30 名が参加しました。区長のあいさつ、来賓祝辞の後、議長に細掘清さんを選出し、上程された 6 議案について慎重に審議し、全ての議案が承認されました。次年度区長についても審議され、近藤勇彦現区長の再任が承認されました。

総会終了後は、懇親会が開かれ、新年度の地区の発展や安全を願い和やかに歓談しました。

川井友愛サロン総会

文・写真 角田伊一さん（川井）

3 月 15 日、川井友愛サロン会の総会が開催されました。川井集会所が改修工事で使えないため、地区内の雪国茶屋を会場に、午前 10 時より会員 9 名が参加して、年度内の行事の反省会を兼ねて、決算の報告を行いました。また、町職員から次年度の健康づくり運動の概要などのお話を聞き、それに基づいた会の事業計画などを話し合いました。研修旅行の行き先などいろいろ意見が出ましたが、高齢者も多いので、あまり歩かなくてもよい場所や施設などを役員に選んでもらうように決定し、皆で参加しようと約束し合い、食事会を開いて解散しました。



大谷健康を守る会料理講習会

文・写真 諏訪典子さん（大谷）

2 月 17 日、大谷活性化センターにおいて料理講習会、試食会がメインとなる「健康ミニフォーラム」が開催されました。大谷健康を守る会と町の共催で実施され、地区住民 26 名が参加しました。講習のテーマは「食べ物の適量を知ろう！」で、一日に必要な栄養を身体の細胞のためにとることと、肉、魚、野菜などの適量を実際に目で見ながら学びました。



高清水地区の伝承文化「ひな流し」

文・写真 菅家敏一さん（高清水）

平成最後の年になってしまいましたが、3 月 4 日の桃の節句に女の子の健やかな成長を願って、化粧紙で作り飾られた各家庭のひな人形を集めて流す恒例の「ひな流し」を行いました。

一日中雨という日でしたが、地区の方々と三島小学校 1 年・2 年生の皆さんが作ったひな人形は 80 を超すほど集まり、木箱に入れ流しました。

緩やかに岸を離れていくひな人形に別れを惜しみつつも、いつまでも祈っている姿が印象的でした。この行事が済むと、温かい春までもう少しです。



宮下分館地域ふれあい事業

文・写真 小島純さん（宮下）

宮下地区と荒屋敷地区では、分館事業として子どもと高齢者の集いを 2 月 17 日に活性化センターで開催し、約 30 名が参加しました。半澤政人先生の指導の下、世界にひとつだけの光と紙の立体アートづくりに挑戦し、熱心にもものづくりに打ち込みました。また、地区の高齢者の方々がすいとんを作り、皆でおいしくいただきました。



プール壁画が完成したよ！

文・写真 小島純さん（宮下）

宮下地区で進めていた、三島小学校プール壁画プロジェクトは 3 月 23 日に行われました。この事業は街並み景観づくりの一環として、6 年前から継続して行っています。作業は代々の三島小 6 年生と一緒にいき、今回で壁画が完成しました。その壁画は地球の進化の記録と地域の未来と幸せをテーマにしたデザインになっています。



輪投げ大会

文・写真 佐久間絹江さん（滝原）

3月17日午前10時より滝原林業集会センターで輪投げ大会が行われました。年明けより行われていた滝原グラウンドゴルフクラブの練習の成果を披露すべく、16名の老若男女が集い、競い合いました。

4グループに分かれて2ゲーム行いました。「入んねー！」と言いながらもパーフェクトも出るなど大いに盛り上がりました。成績発表の後はみんなでお弁当を食べ談笑し合い楽しい一時を過ごしました。



住みよい地区づくりを目指した地区総会

文・写真 本名与四郎さん（西方）

3月24日の午前9時30分より西方ふるさとセンターにおいて、「西方地区総会」が行われました。はじめに、区長の北館長一さんが本年度計画された諸活動が地区住民の理解と協力の下、順調に執り行われたことに対して感謝の意を述べました。また、西日本地域を中心とした集中豪雨や北海道南部地震など自然災害の多発した日本列島でしたが、幸いにも西方地区は災害に強い地区であり、今後も「楽しく安心して住める地区」を目指す内容についての挨拶もありました。

本題である協議事項は事業報告（計画）、一般・特別会計収支決算（予算案）、西方地区規約、役員改選の件など多岐にわたって慎重審議されました。それぞれの協議事項について、住民から建設的で忌憚のない要望や質問が多数出され、充実した実りのある地区総会となりました。



春よ来い、早く来いと団子まき

文・写真 本名与四郎さん（西方）

3月21日の春分の日午前11時より西隆寺本堂において、春恒例の「団子まき」が行われました。団子まきが始まる前に遠藤弘佳住職が団子まきの由来に関わる涅槃会の説話について分かりやすく説明をしました。その後、参加者全員による「般若心経」を心を一つにして唱えました。

本堂には、地元子どもたちやお年寄りだけでなく、近郷近在の多くの方々が約200名近く参集し、熱気に溢れました。団子まきは、遠藤住職や護持会の役員が信徒や住民に5色の団子のほかに鈴のお守りをまいて、無病息災、交通安全など祈願しました。

団子まきに先立ち、2月11日に遠藤住職、護持会役員や地元の小学生たちが団子まき用のお米などの協力のために西方地区全域を晴天の中、托鉢をして回りました。また、3月19日には、地区の婦人会を中心にお寺の庫裏に集まり、托鉢で集めたお米を手際よく5色の色粉と練り合わせながら、たくさんの団子を丸めたとのことでした。地域に残る稀少な行事の一つであり、守り続けていってほしいと願うばかりです。



桧原はつつクラブ

文・写真 佐々木邦雄さん（桧原）

月1回開催されている「桧原はつつクラブ」は、3月14日地区集会所にて開催されました。当日の朝は、この冬最大の40cmの積雪となり、足元の悪い中でしたが会員17名のうち12名が参加しました。

はじめに「元気でまっせ体操」と「太極拳」をビデオを見ながらトレーニングし十分に身体をほぐしました。その後、クラブ代表の海老名弘さんよりあいさつがあり、事業の年間実施報告と31年度の実施計画の報告がありました。また、社会福祉協議会の海老名智深さんより地区クラブの1年間の活動記録の写真がプロジェクターを使って報告され、楽しかった活動を振り返ると会員の皆さんの笑顔が溢れました。また町民課職員より元気で長生き「目指せ！健康寿命+10（プラステン）」健康づくり出前講座メニューの案内を昨年に引き続き実施するので、活用し健康増進に努めて頂きたいという話がありました。

その後、昼食会を実施し、お弁当が配られ持ち寄ったお菓子や手作りのつけもの等をいただきながら、楽しい食事会になりました。





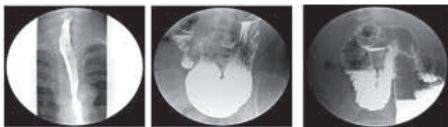
町の検診に胃内視鏡健診が 加わります！

今まで町で実施する胃がん検診と言えば胃エックス線検診（胃バリウム検査）だけでしたが、平成31年度より胃内視鏡検査（胃カメラ）が受診できるようになります。ぜひこの機会をご利用ください！

対象となる人	50歳以上の偶数年齢の方で、【職場などで健診の機会のない方】
場 所	県立宮下病院、坂下厚生病院、高田厚生病院、もこめま内科消化器科医院、金山町国保診療所
時 期	6月～1月
受診の方法	検診を希望する場合は、4月に各地区区長さんが配布、回収する「平成31年度健(検)診受診希望調査票」の1番に○を付けてください。○を付けた方に受診に必要な書類をお送りします。
料 金	1,500円（町の補助が9割程度あります）

①胃バリウム検査

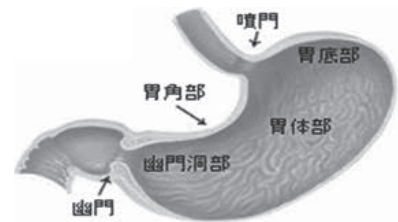
検査の前に発泡剤とバリウムを飲み、撮影台の上に乗り、体の向きを変えながらX線写真を数枚撮ります。



胃全体の大きさや食道～胃～十二指腸の粘膜の状態を見ることができます。病巣の位置や進行度などもわかります。

②内視鏡検査（胃カメラ）

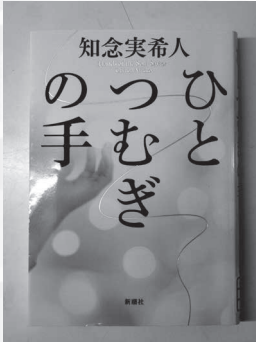
粘膜の状態（病変の大きさや形、色、出血の有無など）を直接観察する検査です。バリウム検査ではわかりにくい病変を見つけることができます。



- その他の健診もすべて健(検)診希望調査で希望の取りまとめいたします。町の検診を受診されない方も必ず提出をおねがいします！

図書のご案内

●今月のおすすめ



「ひとつむぎの手」
作：知念実希人

激務に耐えながらも大学病院に勤める平良は、医局の最高権力者である赤石教授に研修医の指導を命じられる。成功すれば念願の心臓外科医の道が開ける…！そんな中、赤石教授の不正を告発する怪文書が出回り騒動に！

○利用時間
月～金 午前9時～午後9時 土・日・祝 午前9時～午後5時
※年末年始は閉館いたします。

「あおくんときいろちゃん」
作：レオ・レオーニ
絵：藤田 圭雄

あおくんときいろちゃんは大の仲良し。今日も小さな冒険が始まります。シンプルな絵ですが、にぎやかで楽しいお話です。



題 名	著 者
愛なき世界	三 浦 し を ん
戦場のレビヤタン	砂 川 文 次
熱帯	森 見 登 美 彦
そして、バトンは渡された	瀬 尾 ま い こ
火のないところに煙は	芹 沢 央

●新着本●

問 公民館 ☎ (48) 5599

町史編さん室だより

第39回

もし、ご家庭に古い文書などがございましたら、
交流センター山びこまで一報ください。
☎(52) 2165

明治初期における桑原村物産書上

先月は明治の初期、各村の主要生産物やその収穫量等がわかる「物産取調」という史料を取り上げましたが。今月は「物産書上」などと呼ばれる史料について紹介します。

桑原村の元名主にあった『河越文書』に、同村における「物産書上」が遺されています。史料の最後に「右之通調理候処相違無之候也 大沼郡桑原村戸長河越 諒平」と記されていることから、「物産取調」と同じく、県あたりへの報告文書であったことがうかがえます。ただし、この史料には表題がなく、また空白や訂正も多いことから、実際に提出したものの下書きだと思われる。

この「物産書上」は各村における郡ノ境域、村ノ位置、戸口ノ多寡、田畑ノ高、田畑ノ地味、川沼の便否、原野阜陵ノ広狭、寒暖ノ極度といった地理・環境について書き上げさせた後、当地における作物の栽培について記載させています。人造農産物（米・麦・稗・黍・粟・大豆・小豆・玉蜀黍・蕎麦・馬鈴薯・人参・陸稻・麻・楮・漆・桑・杉）、人造養蚕物（蚕）、人造生産物（布、蚊帳地）の項があり、先に挙げた作物等の栽培時期と方法、そして一反歩あたりの播種量及び収穫量が記されています。下記に掲載した表は本史料から播種時期・播種量・収穫量を抜き出したものとなります。一例として、蕎麦の項を引用すると、

ナツ土用ノ末七月ノ節前に播下ス畦蒔トバラ蒔ト二様アリ畦蒔ハ通常ノ畑作ト同シバラ蒔ハ畑ヲ平坦ニ耕シ畝上ヲ浅ク耨キ播下了シテ又一面ノ平坦トス播種ノ前刈草馬糞等ノ肥料ヲ充分ニ撒布シ春ヨリ畑を休メ或ハ麦刈採ノ跡ヘ蒔キ或ハ新ニ焼畑を耕起シ時ク一反歩ニ付種子八升收穫六斗

これを読めば播種の方法が「畦蒔き」と「ばら蒔き」の二種があること、その蒔き方、畑には刈草・馬糞などの肥料を充分に撒いておくこと、また畑は春より休めておいた畑か麦刈り後の畑、もしくは「焼畑」を行って新たに耕起された畑が利用されていたこと、そして一反歩あたりの収穫量がわかります。

誌面の都合上、一部しか紹介できませんが、本史料は桑原村の明治初期における環境、作物の栽培に関して様々なことが明らかになる貴重なものです。

文 三島町史編さん室

※引用部分及び史料から作成した表は、旧字を常用漢字に、漢数字を算用数字にあらため読みやすくしたものです。

品名	播 種	播種量 (1反歩)	収 穫 量 (1反歩)
米	春土用 明け8日目	種粉7升	1石5斗
麦	秋彼岸後 4月中	大麦8升 小麦4升	大麦8斗 小麦4斗
稗	4月中	2升	8斗
黍	半夏生	2升	5斗
粟	4月中	1升	4斗
大豆	4月中	4升	5斗
小豆	4月中	4升	5斗
玉蜀黍	4月中	5升	1石
蕎麦	夏土用の末 半夏生の候	8升	6斗
馬鈴薯	半夏生の候	5升	6斗
人参	11月	4升	乾根160斤
陸稻	4月	8升	1石
麻	雪消え	1斗7、8升	生麻200石 製麻10貫匁
楮	秋土用中根ヲ採リ 苗代へ植付		120貫匁 剥取皮30貫匁
漆	春土用		
桑	春土用		
杉	8月彼岸中		
蚕	5月始め	蚕種1枚	5斗



環境研だより 第9回「新年度のごあいさつ」

国立環境研究所福島支部 地域環境創生研究室

三島町のみなさま、こんにちは。昨年度に引き続き、広報みしまの一部をお借りして連載をもたせていただくこととなりました、国立環境研究所です。

改めて自己紹介させていただきますと、国立環境研究所は、昭和 49（1974）年に公害を研究する機関として茨城県つくば市にて発足し、昨年も話題になったヒアリなど特定外来生物から気候変動まで、環境に関する幅広い調査や研究をしています。名前が長いので、国環研（こっかんけん）、あるいは環境研（かんきょうけん）とお呼び下さい。福島支部は、東日本大震災などから環境を回復するための研究を行うため、平成 28（2016）年に福島県三春町に設置されました。



図1_連携機関の東北大学による町内の林業見学（写真提供：志賀薫）

私たち国立環境研究所福島支部は、ご縁あって平成 28（2016）年より三島町、奥会津地域の研究に携わり、今年度で3年目を迎えました。昨年度は 30 回ほど町を訪問し、役場や地域の森林関係者の皆さんと三島町の豊富な森林資源をどのように活用すれば三島町や奥会津の地域の中で循環する経済のしくみをつくることができるのか、繰り返し意見交換をさせていただきました。森林資源をうまく活用するには、建材や木質燃料といった需要先を作り出すことも重要ですが、どこの山からどうやって切り出すかといった供給元の課題



図2_昨年12月に実施した第2回出前講座

を考えることも同じように重要になります。その際、実際に山を持っている町民の皆さんが森林管理に対してどのような考えをお持ちなのか、今年度はぜひお話を伺えればと考えております。町の方で昨秋から開始された「木の駅事業」もうまく活用しながら、三島の山が少しでも動く1年になることを私たちも期待しています。

昨年度と同様、来年3月までこのスペースをお借りして、私たちが三島町や奥会津地域で行っている研究について紹介いたします。今年度は具体的な現地調査を増やす予定ですので、実際に私たちが三島町の中でどのようなことを行っているのかを分かりやすく紹介できればと考えています。

三島町の持続可能なまちづくりのお役に立てる研究となればと思いますので、記事の内容についてお気づきの点などございましたらぜひお知らせ下さい。また、町内で私たちを見かけた際は、ぜひ直接お声がけください。どうぞよろしくお願い致します。

<筆者紹介>

中村 省吾（なかむらしょうご）

昨年度に引き続きお世話になります、沖縄県出身の中村です。今年度は地域の皆さんと直接お話する機会も設けられと思いますので、その際はぜひよろしくお願い致します！



●内容に関するお問合せ先
国立環境研究所福島支部 地域環境創生研究室
☎ 0247（61）6572

愛ばんしょ外来のお知らせ



「みしま健康ポイント」の対象です！

宮下病院では、毎週木曜日「愛ばんしょ外来」（在宅療養生活支援外来）を開設しています。

病気や障がいを抱えて家で生活する方や、家族からの介護や生活についての相談窓口

地域に住む方々が気軽に立ち寄れる交流場所の提供

地域に住む方々の健康維持・増進、介護・疾病予防のための支援

などを目的に、看護師、薬剤師、管理栄養士、リハビリスタッフが皆様の在宅生活のためのお手伝いをさせていただきます。

健康になりたいけど、何をすればいいの？

介護のコツを知りたい！

血圧高いんだけど、何に注意するといいの？



介護や病気のことを話す相手が欲しい



誰に聞けばいいのかしら…

相談窓口では、皆さまの疑問や不安、要望などの相談を受け付けています。予約は不要です。待合室にお越しください。

費用は無料です。どなたでもご利用できますので、お気軽にお越しください！（相談コーナーと健康教室は予約不要です）

季節の変わり目は体調が崩れやすい時期です。室温調整、休養、手洗い、うがいをしましょう。

月 日	内 容
4月 11日(木)	・相談コーナー ・健康教室「やってみよう！棒体操♪」（講師：理学療法士）
4月 18日(木)	・相談コーナー ・健康教室「お薬の形」（講師：薬剤師）
4月 25日(木)	・相談コーナー ・健康教室「和菓子のお話」（講師：管理栄養士）

・相談コーナー 午前9～12時、午後1時～4時
・健康教室 午前10時30分～11時
・場 所 宮下病院 外来待合室等
(健康教室の内容は変更になる場合があります)

☎ 宮下病院 ☎ (52) 2321

病棟看護師のつぶやき

笑いと健康について

春風の心地よい季節になりましたが、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか？

さて皆様、最近大きな声で笑っていますか？『笑い』には、いいことがたくさんあります。まず、脳の働きが良くなります（認知症予防に効果あり!）。次に、心臓や肺・筋力がアップし血行が良くなります（老化防止に最適!）。そして自律神経のバランスが良くなります（ストレスが減って、免疫力アップ!）。ストレスが減るので、幸福感が得られ、鎮痛作用まであるのです。その上『笑い』には副作用がありません。誰にでも

専門看護技師（兼）看護師長 押部香澄

でき、必要なのは笑おうとする気持ちだけ。しかも無料なのです。

しかし、現実には厳しく、自分ではどうしようもないことがたくさんあります。それでも笑う努力をしてみましょう。心の底から笑えないときは、作り笑いでも効果があります。宮下病院では、出前講座を実施しています。『笑いと健康』講座メニューがありますので、ぜひお声かけください。



会津坂下警察署からのお知らせ

アポ電強盗を知っていますか？

首都圏などで、息子などの家族や警察官などを装って被害者方に電話をかけ、入院費用などの名目で金銭を準備させたり、資産や現金保管状況、家族の在宅状況などを聞き出した後、被害者宅に押し入り被害者を縛り上げ現金を強取するものです。

検査したら急に入院することになってお金が必要なんだ！



大丈夫？いくら必要なの？



家族の名前を名乗っても、電話番号が変わっていたら、電話を切って元の電話番号にかけ直しましょう。

警察官が資産や現金の保管状況を聞くことはありません。

留守番電話を使って、相手を確認してから電話に出るようにしよう。



キャッシュカードすり替えに注意！

全国的に、警察官や金融庁職員を装って被害者に電話を架け「キャッシュカードが不正に利用されている」などと言って、キャッシュカードを準備させた上で、受け子が被害者方を訪問し、隙を見てキャッシュカードを別のカードにすり替えるなどして窃取するものです。

〇〇警察署のAです。あなたの口座からお金が引き出されています。これから、金融庁のBがキャッシュカードを取りに行きます。



絶対にキャッシュカードを渡したり、暗証番号を教えたりしないでください。

不審な電話があったら、警察や家族に相談しましょう

ネット犯罪から子ども達を守ろう！

家庭でのインターネット利用のルールづくり！

犯罪やトラブルから子どもを守るために、フィルタリングの利用とともに日頃から家庭でのコミュニケーションをとり、子どもにインターネットの危険性を教えることや一緒に家庭のルールを作ることが大切です

- ◇接続するサイトやダウンロードするアプリは保護者に確認する。
- ◇個人を特定される情報は書き込まない。
- ◇知らない人と電話やメール、メッセージの交換をしない。
- ◇他人のID・パスワードを勝手に使わない。
- ◇下着姿や裸の写真は撮らない、撮らせない。
- ◇利用料金や利用時間を決める。
- ◇困ったことがあれば、必ず保護者にすぐ相談する。
- ◇ルールを守れなかったときのルールを決める。



放射能モニタリング検査のため、町内の山で『山菜・きのこ』を採取します



福島県では、平成31年度に三島町内において山菜・野生きのこの出荷制限解除に向けて、検体の探索及び採取を計画しています。事業の目的を御理解いただきますとともに、県から委託を受けた業者が山へ入り、山菜・野生きのこの探索及び採取を行うことについて、ご理解・ご協力をお願いします。野生きのこについては再度秋に周知いたします。

◆予定期間 平成31年4月～12月

◆対象品目

こしあぶら、クリタケ、ナメコ、ナラタケ、シャカシメジ、ヒラタケ、ブナハリタケ、ホンシメジ、マスタケ、ウスヒラタケ、ウラベニホテイシメジ

◆採取量

町内全域から満遍なく採取することを基本とし、1検体当たり500gから1,000g程度採取する予定です。

『山菜・たけのこ』の採取・出荷等について



山菜・たけのこのシーズンを迎えました。福島県では、山菜やたけのこ15品目の放射性物質のモニタリング検査を行っており、食品中の基準値(100ベクレル/kg)を超える放射性セシウムが確認された山菜やたけのこについては、複数の市町村で出荷制限が継続しています。出荷制限の状況につきましては、福島県ホームページなどでご確認ください。

また、モニタリング検査を実施していない品目は販売することができませんので、山菜やたけのこの販売を希望する方は、役場産業建設課にお問い合わせください。

●モニタリング品目

＜春取り山菜＞(13品目)

うど、うわばみそう、おおばぎぼうし(うるい)、くさそてつ(こごみ)、こしあぶら、さんしょう、ぜんまい、たらめ、ふき、ふきのとう、みやまいらくさ(あいこ)、もみじがさ(しどけ)、わらび

＜たけのこ＞(2品目)

たけのこ(孟宗竹、淡竹、真竹)、ねまがりたけ

【モニタリングに関するお問合せ先】

福島県会津農林事務所 森林林業部林業課
Tel 0241-24-5734 Fax 0241-24-5748

三島町役場 産業建設課産業係
Tel 0241-48-5566

◆会津地方における林産物の出荷制限等の状況

H31.3.19 現在

市町村名	わらび(野生)	たらめ	こしあぶら	ねまがりたけ	きのこ(野生)
会津若松市			×		×
喜多方市	×	×(野生)	×		×
北塩原村		×	×		×
西会津町			×(野生)		×※1
磐梯町			×		×
猪苗代町		×	×	×	×
会津坂下町			×		×
湯川村					
柳津町			×		×
三島町			×		×
金山町			×		
昭和村			×		×
会津美里町			×		×※2
下郷町			×		×
檜枝岐村					
只見町			×(野生)		×※3
南会津町			×		

※1 ナメコ、ムキタケを除く
※2 ムキタケを除く
※3 ナメコ、ムキタケ、クリタケ、マイタケ、マイタケを除く

×は出荷制限が指示されている品目。出荷制限は、指示が解除されるまで継続します。

街頭犯罪発生件数 (H31.1.1 ~)

区 分	管 内	三島町
空 き 巣		
忍 込 み		
事 務 所 荒 し	2	
自 動 車 盗		
自 転 車 盗		
自 販 機 ね ら い	1	
車 上 ね ら い		
部 品 ね ら い		
街 頭 犯 罪 合 計	3	0
全 刑 法 犯	5	0

(平成31年1月31日) 現在

○三島町内で車上ねらいが発生しました。

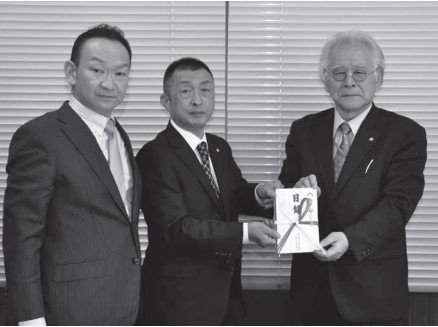
・車から離れるときは短時間でもドアロックしましょう。

・車内にバッグなどを置かないようにしましょう。

ご寄附
ありがとうございました

滝谷建設工業(株)が
町に寄附

滝谷建設工業(株)は、2月11日に開催された第47回雪と火のまつりの出店売上金を町に寄附されました。田中智仁代表取締役社長らが役場を訪れ、矢澤町長に目録を手渡しました。



消防署からのお知らせ
山火事・事故等に気をつけましょう！

平成 31 年 全国山火事予防統一標語

「忘れない 豊かな森と 火の怖さ」

◆山火事や事故を防ぐために、次のことに注意しましょう。

・たばこのポイ捨てはせず、決められた場所での喫煙や携帯灰皿を持参する。

・火気を使用する場合は、周囲の可燃物に十分注意するとともに消火用の水等を必ず用意する。

・強風時や乾燥時には、たき火・火入れをしない。

・入山する際はあらかじめ行き先、ルートを確認し、家族に行き先を伝えておく。

・天気予報に気を配り、防寒対策を徹底するとともに、無理な入山は控えましょう。

今年は、降雪量が少なく渇水状況にもあります。今の時期は、空気の乾燥や季節風あるいはフェーン現象などの気象条件等から、山火事発生の危険性が高い時期となります。山火事は一旦発生するとその消火は容易ではなく、一瞬にして貴重な森林を焼失するとともに、その回復には長い年月と多くの労力を要することとなります。

これから暖かくなるにつれ、山に入る機会も多くなりますが、特に、空気が乾いている日や風が強い日にはたき火や野焼きをしないなど、火の取扱いには十分な注意が必要です。

火事・救急・救助は 119 番まで
三島町消防団
会津坂下消防署三島出張所
電 話 5 2 - 3 0 3 2
F A X 5 2 - 3 0 3 3

社会福祉協議会より

サロンのご案内

社会福祉協議会へのご寄附
ご遺志によるもの

町社会福祉協議会へのご寄附

社会福祉協議会 電話 (52) 3344

▼滝谷和楽塾
4月12日(金) 11時〜 滝谷集会所

▼サロンないり社会見学
4月15日(月) 福島市(花見山)

▼ひまわりサロン
4月17日(水) 10時〜 町民センター

▼大登サロン
4月19日(金) 13時30分〜 大登生活改善センター

▼川井友愛サロン
4月22日(月) 10時〜 川井集会所

町社会福祉協議会 電話 (52) 3344

社会福祉協議会より

町の人口と世帯
3月1日現在



人口	1,628	-5	出生	0
男	804	-1	死亡	5
女	824	-4	転入	1
世帯	768	-1	転出	1

⑨住民基本台帳による数値です。増減数は前月との比較、出生・死亡・転入・転出は前月1カ月間に届出のあった人数です。

4月分納税のご案内

【納期限 5月7日】

▼固定資産税(第1期)

▼軽自動車税(第1期)

町民課町民係 電話 (48) 5555

忘れずに納付しましょう

交流から定住へ

生活工芸アカデミー第2期生修了式

生活工芸アカデミー第2期生修了式は3月20日に生活工芸館で行われ、矢澤町長より4名のアカデミー生へ修了証が手渡されました。4名は浅岐地区に住み、編み組技術を学びながら、農作業や地区の方々のふれあいなど通じて三島町での生活を体験してきました。

また修了生3名の方が伝承生として、今まで培った技術や人脈を活かしながら引続き当町で生活していきます。



修了証を手にするアカデミー生の皆さん（左から西山明代さん、浅葉寛子さん、安彦健一さん、山本美智子さん）



アカデミー生の作品

町長日記（会津の三泣き）

No. 45

3月の下旬になると、時節柄毎日のように転勤のあいさつに来る人が多くなります。例えば、三島の小中学校に勤務していただいた方や会津地方に勤務した国や県の職員の皆さんです。

この光景は毎年のように繰り返されますが、いつも私は「会津の三泣き」という言葉を頭の脳裏によぎりながら接している自分自身を発見しています。また、私は何十年も常に「静」で、転勤されます皆さんの人生は何十年も「動」で、非常に羨ましく感じる時もあり、私もたまには「動」という人生を歩んでみたいと感じることもあります。

この時期になると、会津の風土にどっぷり浸かり育ったせい、外の視点からの会津や三島をどの様に感じているのか気になります。

会津人を端的に表現する言葉として「会津の三泣き」があり、会津の良さ、辛さが凝縮されていると言われています。この言葉は会津人の氣質を、転勤される皆さんが何代にもわたり積み上げて作り上げた言葉ではないかと考えています。

（一泣き）始めて会津に赴任した人は、よそ者に対する会津人のとっつきにくさに泣きます。

（二泣き）会津の生活に慣れてくると、温かな心に二泣きします。

（三泣き）会津を去る時は、情の深さに心を打たれ、離れがたくて三度目の涙を流します。

福島県内でも、四方山に囲まれた会津は、中通りや浜通りと違って、昔から独自の雪国の生活文化を形成してきました。特に会津地方は、食文化や住宅文化などは新潟の影響を強く受けていると言われています。

縄文時代の遺跡からは、広域交流があったとみられる出土品が多く見られ、決して閉鎖的な地域ではありませんでした。そのような視点から考えると、この「会津の三泣き」は会津藩つまり武士道の精神が色濃く残っている言葉ではないかと考えます。

会津は「会津の三泣き」という気風を大事にしなが、心は常に「動」であり、多くの情報を収集しながら、会津の歴史の蓄積を土台とし、外に拓かれた新たな歴史を創る事が大事なように考えます。つまり「不易流行」の精神であります。

三島町長 矢澤 源成